

辻 泰弘 国会ニュース

つじ やす ひろ Kokkai News 2006年7月7日 NO. 50

医療保険制度改革質疑報告(厚生労働委員会 5月30日)

◎ 国民の医療に関わる保険制度の基本・根幹は守れ!!

辻 泰弘: 日本の医療制度の長所、皆保険・フリーアクセス・現物給付は堅持せよ。

川崎 厚生労働大臣: 当然、これらを維持できるよう努力するのが使命だ。

辻 泰弘: 医療の自己負担3割は維持されて然るべき。今後どうするのか。

川崎 厚生労働大臣: 3割負担をこれ以上上げることは考えていない。

辻 泰弘: 昨年、制度改正された介護保険の負担をさらに2割にしようとの主張をどう考えるか。

川崎 厚生労働大臣: 今回、療養病床を介護に移行させるのに介護へ行くと2割では整合性なし。

辻 泰弘: 経済成長率の範囲内などの医療費の総額管理の手法は不適切との見解は変わらないか。

川崎 厚生労働大臣: 経済成長に合わせた管理は不可能。総額管理的なものについては反対。

辻 泰弘: 潜在的国民負担率を数値目標として定めることは不適切との見解は変わらないか。

川崎 厚生労働大臣: 初めから数字の枠をはめるものではない。医療などのあり方を吟味すべき。



◎ 今日の日本を築いた高齢者に冷たい負担増の連続! 政府方針撤回せよ!!

辻 泰弘: 今次改正は改革なき負担増。医療提供体制の充実不十分。市町村国保の抜本改革なし。

被用者保険サイドの不満払拭されず。医師不足への対応なし。医療スタッフの労働環境改善なし。

近年、高齢者の負担増が連続。年金課税の強化、国保・介護の保険料引き上げ、定率減税の

廃止、その上に医療の負担増。短期間に急激な負担を連続して求めすぎ。戦後の廃墟の中から今日の日本をつくった世代が高齢期にある時、非常に冷たい対応で反対。撤回すべきだ。

◎ 新たに現役世代に求められる支援金、納付金、拠出金をもっと説明せよ!!

辻 泰弘: 健保財政に占める支援金等の割合は、病床転換支援金説明なし。退職拠出金いつまで。

水田 保険局長: 2015年度は50%、以降も増加。小規模で法案要綱では略した。2022年度まで。

◎ 高齢者支援への理解のため保険料率の内訳明示や制度運営への参画を!!

辻 泰弘: 現役世代の理解のため、支援分の料率の明示を。高齢者医療制度の運営に参画の道を。

水田 保険局長: 保険料率明示は望ましい。医療保険者の納得と理解必要。協議の場を今後検討。

◎ 平成7~11年度の伸び率を前提とした医療費の将来推計は不適切!!

辻 泰弘: 今次改革の議論の前提である医療費の将来推計が5年前の数値を前提としたのは問題。

水田 保険局長: 頻りに制度改正があった平成12年以降の伸び率は分析が困難。精度が低い。

◎ 「社会保障の給付と負担」「サラマンの社会保険料率」の見通しの提出を!!

辻 泰弘: 2年前の年金審議の時と同様に、社会保障・社会保険の将来見通しを試算し提出せよ。

山下 厚生労働委員長: 理事会で協議。(同資料は6月13日の委員会に提出。下記ホームページ参照。)

ご意見・ご要望等はお気軽にご連絡を。なお、本号は下記のホームページに掲載済。

兵庫県事務所 TEL 078-230-8824 東京事務所 TEL 03-3508-8402 <http://yasuhiro-tsuji.jp/>